NES 型学習自己評価法の工夫と改善 (2)

特別支援学校、特別支援学級での試験的実践応用に関する考察

森和彦

(秋田大学教育文化学部)

キーワード: 学習自己評価、関心領域の宣言、特別支援

Open Clinical Trial Testing of NES-typed Self-Evaluation at a Classroom for Special Needs Education

Kazuhiko MORI

(Faculty of Education and Human Studies, Akita University)

Key Words: Self-Evaluation, Declared Domains of Emphasis, Special Needs Education

問題提起と目的

本研究の NES 型学習自己評価法 (以下、NES 評価) は、自己評価を順序尺度 (程度の申告) ではなく、学習の情意・向上面に焦点化させた名義尺度 (関心の宣言) で構成され、N/もっとと良くしたいところがある、E/とても良く頑張ったので自分を誉めたい、S/ここまでできれば十分満足でき、充実した時間だった、という評価力点を選択させて、その内容・根拠を表現させる方法である。この選択肢は教師の授業改善のための確認になるほか、評価基準を示して比較せずに自己評価ができるなどの特徴を持ち、小学校低学年児童にも活用可能 (森ほか、2010) だった。ところで、今まで順序尺度としての A B C 評定等による児童・生徒の理解度・達成度に関する自己評価が行われてきたが、特別支援の現場では指導に十分に役立っておらず、特別支援学校および特別支援学級の児童・生徒への導入には早急な改善が必要である。

本研究では指導と評価の一体化の観点から、出来の程度ではなく学習活動の関心事を宣言して振りかえさせる NES 評価が軽度知能障碍の児童・生徒の学習改善にも有効であると仮説を立て、1) 「実際の授業」の振り返りカード内容の質のみならず教師の授業改善力の自己評価も上昇するような NES 評価を開発し、2) NES 評価の特別支援学校向けの運用指針を抽出する。

方 法

研究実践担当: A 県 F および Y 特別支援学校、ならびに A 県内の特別支援学級を担当する有志の教員。

参加児童・生徒: 実践授業に参加する小学三年生から高校三年生までの主に軽度知能障碍を有する児童・生徒。

実践授業: 各授業内で実際に実施された授業は国語、算数、生活単元学習、作業学習。自己評価を用いる単元、抽出する児童・生徒、および期間は、非限定的臨床応用法 (森, 2012) に従い、担任教師が児童・生徒の実態に合わせて選択する。

実施期間: 2012 年 7 月から翌年 2 月まで

手順: 1) 担当教師に学習活動の良いところを宣言して表現する NES 評価の背景、先行実践による導入方法や事例の説明を行う。2) 各単元、授業において成績評価に関わる授業内容の観点を複数用意し、教師によって工夫された NES 評価を振り返りカードに組込む。授業後、振り返りカードに記入する形で自己評価を実施させる。3) 振り返りカードの内容を分類・分析し、NES 評価による授業改善の有効性と実施条件について考察する。

結 果

Y 特別支援学校高等部作業学習 (さをり織り) のケース:

作業面と技能面に分けて NES に○をつけて横の欄にコメントを入れる形式が考案され、10 名のデータが分析対象とされた。1) それまで ABC 型の自己評価になれていたため、変化への抵抗が大きく、2) 最初は「複数つけても良い」、「すべて肯定的な評価」という意味が理解できなかった。3) コメント指導を繰り返して慣れてくると、作業意欲の向上に繋がったと

担当教師は評価している。

F 特別支援学校中学部作業学習 (紙工、縫製) のケース:

8 つの観点別自己評価による「もじま式」の NES 評価記入欄と並行して教師の○×評価欄があり、その下に生徒、教師、保護者のコメント記入欄もある振り返りシートが用いられた。1) 評定の分布は個人で異なる。2) 教師の評価やコメントも入り、観点別でもあるので授業や教師のねらいをくみ取りやすく、課題も見つけやすい。そのため抽出された 4 名の生徒では N 項目を 20% 前後採用していた。3) 「できた/できない」の評価ではないことを、教師も生徒も十分理解していないことが分かった。

特別支援学級小学部算数・日常生活の指導のケース:

アスペルガー傾向の小学六年生 1 名が NES の評点を記入し、その評価に関する本人の口述コメントを教師が代筆して確認させる方式。本人は自己否定的な傾向が強く C 評価的に厳しく捉えていたが、教師の肯定的なコメントを模範として学習の捉え方を学ぶことで、投げやりな態度も減少し、すべて肯定的に捉える NES 評価のやり方に慣れていった。慣れていくと課題が出されなくとも NES 評価を用いるようになり、日常生活の指導にも NES 評価を運用できるようになった。

特別支援学級小学部 (3 名) 国語・算数のケース:

NES の評点に対応する絵と文を教室に掲示しておき、三年生と六年生は振り返りカードの 3 つの絵のどれかに○をつけ、その右横にコメントを記入する方法。1) NES 評価の導入で、N に関する話し合いがしやすくなった。2) 特別支援学級の児童も評価観点を絞れば、めあてに沿って十分自己評価ができることを教師が実感している。3) 国語よりも算数の方が導入しやすいのは、国語の観点表現がわかりにくいものになっているからだと思いつき、授業改善ができた。

考 察

- 1) 読み書きがある程度可能な特別支援学校・学級の児童・生徒もめあてに沿った観点で NES 型の自己評価ができる。
- 2) 担当教師への NES 評価の説明理解には更なる工夫が必要。
- 3) 自己評価に対する教師のコメント指導は欠かせない。
- 4) NES 評価は意欲の向上に繋がると教師は評価している。
- 5) めあてや観点表現の曖昧さがあると自己評価判断が難しくなる場合がある。

引用・参考文献

- 森和彦・堀井綾子・吉野正利・杉山春美 (2010) 質的情意面に焦点化した観点別学習自己評価法 (NES) の実践活用に関する探索的考察 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 32, 95-103.
- 森和彦 (2012) NES 型学習自己評価法の工夫と改善～公立小学校での非限定的臨床応用による考察～ 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 34, 119-128.

謝辞

本研究は、科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究 (課題番号 24653288) の助成を受けて行われた。